



教員が研究の楽しさを語る

第196回(7/3)佐野 晋平先生推薦

ブックガイド



※掲載されている本はL棟2階 あかりんアワーのコーナーに配架されます。

Book1

競争社会の歩き方: 自分の「強み」を見つけるには

著者: 大竹文雄著

出版: 中央公論新社, 2017.8 (中公新書, 2447)

コメント: 身近な問題を素材にして経済学の考え方、適用範囲の広さを紹介しています。



Book2

「学力」の経済学

著者: 中室牧子著

出版: ディスカヴァー・トゥエンティワン, 2015.6

コメント: エビデンスに基づき教育を考えることの意義を明解かつ網羅的に紹介しています。



Book3

日本の公教育: 学力・コスト・民主主義

著者: 中澤渉著

出版: 中央公論新社, 2018.3

コメント: 日本の教育問題を歴史的な背景、今日的な課題、統計や理論など幅広く紹介しています。





Book4

効率と公平を問う

著者：小塩隆士著

出版：日本評論社, 2012.1

コメント：所得再分配を例に、効率性とは何か、公平性と所得格差の問題、教育の問題、公的年金などの世代間の問題について著者の研究成果をベースにしつつわかりやすく解説されています。



Book5

幼児教育の経済学

著者：ジェームズ・J・ヘックマン著；古草秀子訳

出版：東洋経済新報社, 2015.7

コメント：ノーベル経済学賞受賞者であるヘックマンの貧困対策に関する講演をまとめた本です。「不利な家庭環境の子どもに対する介入は効率性・公平性を同時に達成する政策手段だ」という政策提言を著者の研究成果をベースに簡潔に説明されています。

